

特定非営利活動法人 日本免疫学会

平成 26 年後期 **Tadamitsu Kishimoto International Travel Award**

研究発表報告書

申請者氏名	篠田 紘司	会員番号	0033131
申請者の 所属・職名	九州大学生体防御医学研究所 感染制御学 九州大学大学院医学研究院 神経内科学		
出席会議名	7th. Pan-Asian Committee for the Treatment and Research in Multiple Sclerosis (PACTRIMS)		
発表論文 タイトル	CD30 ligand is a new therapeutic target for central nervous system autoimmunity		

実施結果:

この度、平成26年度Tadamitsu Kishimoto International Travel Awardを頂き、大変光栄に存じます。この賞金をもちまして、私は平成26年11月5～7日に台湾・台北で開催された7th. Pan-Asian Committee for Treatment and Research in Multiple Sclerosis (PACTRIMS)に参加させて頂きました。

このPACTRIMSはアジア太平洋地域の多発性硬化症の治療と研究に関する学会で、欧州地域で行われるECTRIMS、北米地域のACTRIMSなどに相当する、当地域における多発性硬化症研究の中核となる学会です。当該地域のみならず、欧米からも多数の参加があり、世界的な研究の潮流に触れ、多発性硬化症に関する基礎研究や臨床研究の最新情報を入手することができました。そして私は、多発性硬化症のマウスモデルである実験的自己免疫性脳脊髄炎（EAE）におけるCD30 ligand/CD30シグナルの役割の検討結果について口頭発表とポスター発表の両方を行いました。CD30 ligandとCD30を介したシグナルがEAEにおける抗原特異的CD4 T細胞応答を2段階式に増強し、そのシグナルの阻害に治療効果があることを見出したことを報告しています(Shinoda K, et al. J Autoimmun 2015, in press)。発表に対しては、アジア地域のみならず、欧州や北米の研究者より有意義な質問や提案を頂き、その意義や今後の方向性について深く考えさせられました。

最後に、このような機会を与えて下さいました岸本忠三先生、並びに選考委員の先生方に厚く御礼申し上げます。また、研究のご指導を頂いた吉開泰信教授、研究の機会を下さった吉良潤一教授や研究室の皆様へ感謝し、この経験を将来の研究の糧とし、更なる免疫学の発展に貢献できるよう努めて参りたいと思っております。

注) 本報告書は手書きでなく、ワープロを使用して作成して下さい。